



TITLE:

京大広報 No. 453

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 453. 京大広報 1993, 453: 603-610

ISSUE DATE:

1993-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209184>

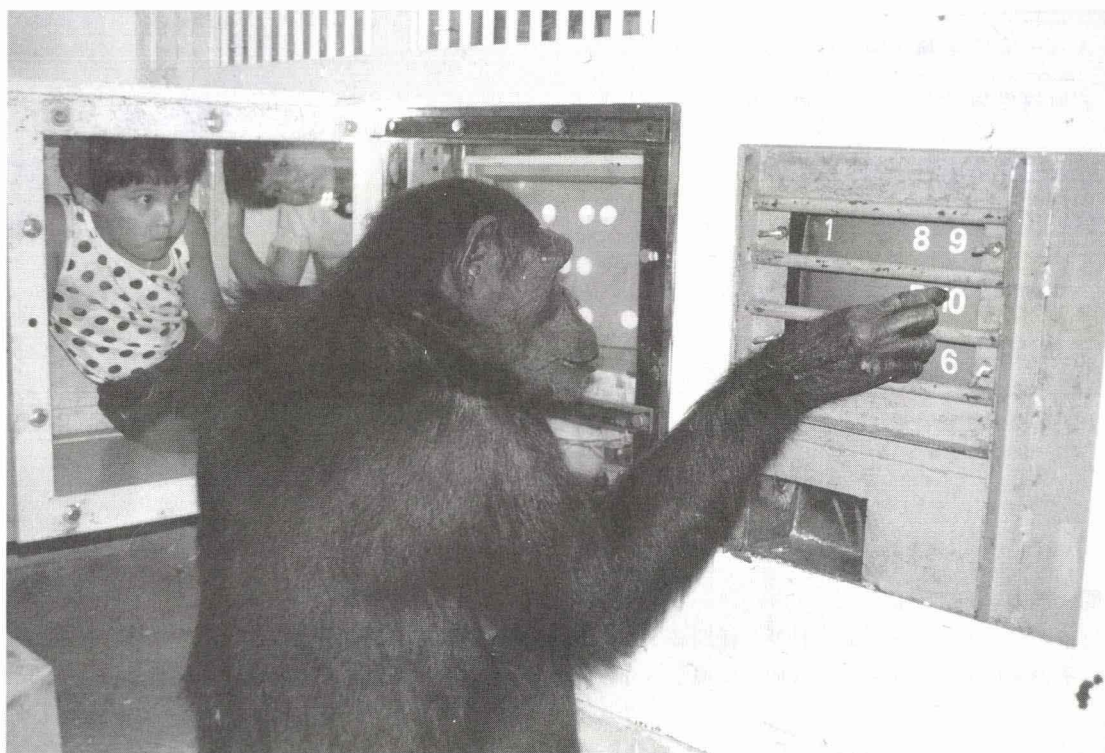
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 453

京都大学広報委員会



数の勉強をするチンパンジー（アイ） —関連記事本文604ページ—

目 次

<大学の動き>

- 平成5年度国立学校施設整備事業の決定……………604
部局長の交替等……………604

<紹介>

- 霊長類研究所
—新しい研究組織—……………604

<保健コーナー>

- 狭心症……………607

平成5年度文学部博物館

- 秋季企画展の開催……………608

<随想>

「史学概論」偶想

名誉教授 中村賢二郎……609

<コラム>

英語・EC語・世界語

医学部教授 武部 啓……610

<大学の動き>

平成5年度国立学校施設整備事業の決定

平成5年度国立学校施設整備事業のうち、本学関係分は次表のとおりである。

| 部 局 名 | 構造・階 | 面 積 | 備 考 |
|--------------------|--------|----------------------|--|
| 基礎物理学研究所研究実験棟 | SR 5-1 | 3,330 m ² | SR は鉄骨鉄筋コンクリート構造 R は鉄筋コンクリート構造 5-1 は地上5階地下1階 |
| 文・教・法・経済学部校舎 | R 3-1 | 2,750 m ² | |
| 理学部校舎(Ⅱ期) | SR 5-1 | 5,440 m ² | |
| 病院基幹整備(特高受変電, 焼却炉) | | 一 式 | |
| 人間・環境学研究科(埋文調査) | | 一 式 | |
| 放射線生物研究センター研究棟 | SR 5-1 | 1,070 m ² | |
| ウイルス研究所研究棟 | R 3-1 | 1,160 m ² | |
| 医学部校舎(Ⅱ期) | SR 5-1 | 4,680 m ² | |
| 工学部研究実験棟 | R 3-1 | 2,750 m ² | |
| 霊長類研究所実験研究棟 | SR 5-1 | 2,480 m ² | |
| 吉田地区基幹整備 | | 一 式 | |

上記事業の実施に際し、工事周辺部におけるご協力をお願いします。

部局長の交替等

人間・環境学研究科長

竹市明弘人間・環境学研究科長の任期満了に伴い、その後任として足利健亮人間・環境学研究科

教授(文化・地域環境学専攻 文化・社会環境論講座担当)が10月1日人間・環境学研究科長に任命された。任期は平成7年9月30日までである。

<紹介>

霊長類研究所

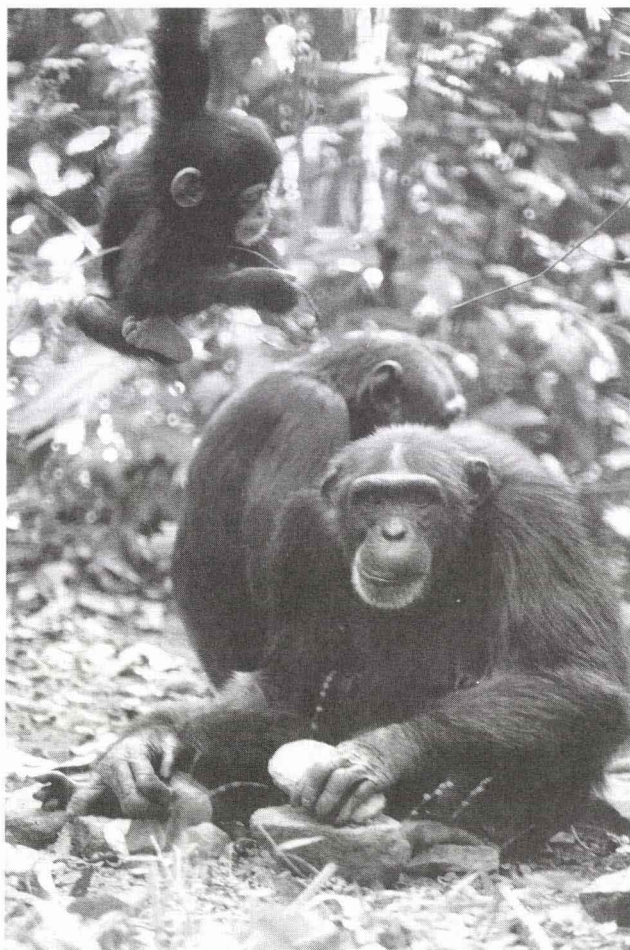
—新しい研究組織—

霊長類研究所が改組された。平成5年4月1日付けで、従来の9研究部門が、4大研究部門(10分野)に統括された。進化系統研究部門(形態進化・集団遺伝・系統発生)、社会生態研究部門(生態機構・社会構造)、行動神経研究部門(思考言語・認知学習・行動発現)、分子生理研究部門(器官調節・遺伝子情報)である。昨年が創立25周年にあたる本研究所は、四半世紀の歴史をひと

つの区切りとして、いま新たな研究の展開を期している。

改組に伴い、行動神経研究部門の思考言語分野が新設され定員増となった。思考言語分野は、大型類人猿を主な対象として、かれらが実験室や野外で示す高次の認知・運動機能を、行動、脳、その他のレベルから非侵襲的手法を中心に、総合的に研究する分野である。

本研究所では、チンパンジーの人工言語習得研究を昭和51年(1976)以来継続しておこなってきた。その後、さまざまな認知機能の側面をヒトとチンパンジーその他の霊長類のあいだで比較す



ギニア国ボッソウの野生チンパンジーの石器使用。



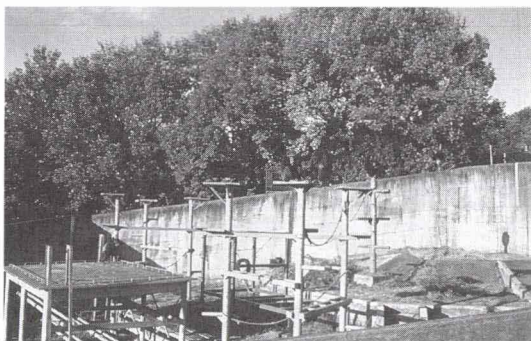
ザイール国ワンバの野生のボノボ
(ピグミーチンパンジー)

る、比較認知科学的研究が展開している。一方、野外では、大型類人猿の生態や行動に関する継続研究がおこなわれてきた。大型類人猿にはチンパンジーとボノボ（別名ビグミーチンパンジー）という2種のチンパンジー属、そしてゴリラ属、オランウータン属の、3属4種がいる。そのすべての種について、本研究所の研究者が中心となって、アフリカや東南アジアでの野外調査を推進している。

また、ヒトの直立二足歩行の起源を知るうえで重要な、チンパンジーの姿勢・運動に関する形態と機能の発達研究がすすめられてきた。チンパンジーをはじめとする大型類人猿とヒトの遺伝的距離についても、集団遺伝学的・生化学的手法によって、従来考えられてきた以上に両者の距離は小さいことがわかってきた。

今回の思考言語分野の新設が大型類人猿研究の核となり、従来推進してきた大型類人猿の研究がさらに多面的かつ総合的に発展することが期待されている。とくに本年度、類人猿行動実験研究棟の新営が認められ、大型類人猿の実験的研究の物的基盤の整備が進むことになった。愛知県犬山市にある研究所敷地の東端に、地上5階地下1階の建物が来年度には完成する予定である。研究所が現在保有するチンパンジー10個体にも、新しい実験室と住居が提供されることになった。

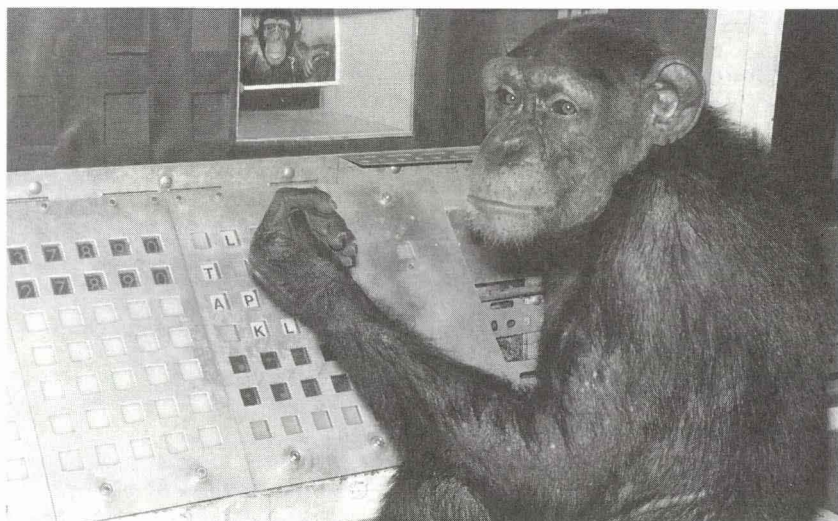
本研究所は、その設立以来、日本の霊長類研究のナショナルセンターとしての役割を担ってき



チンパンジーの放飼場

た。改組による4研究部門に加え、サル類保健飼育管理施設とニホンザル野外観察施設の二附属施設を有している。現在保有するサル類は、23種833個体に達し、研究に必要なサルを自家繁殖によって所内生産し、野生由来のサルの導入に頼っていない。来年度からは共同利用研究の一環として、自家繁殖したサルをごく少数だが所外に供給する道も拓いた。野外では、下北・上信越・木曽・幸島・屋久島に5つの研究林をもって、サルを含む生態系の保護管理と、野外研究の基盤確保に努めている。

共同利用研究所としての機能でいえば、全国の研究・教育機関から公募によって毎年多数の研究者を受け入れ、共同研究がすすめられている。教育面では、理学研究科の一専攻である霊長類学専攻の大学院生が、次代の霊長類学を担う人材として、本研究所で勉学と研究に励んでいる。また、研究所で共同研究に従事したり研究指導を受ける



顔写真をみて個体の名前をアルファベットで答えるチンパンジー（アイ）

外国人の数も、年々増加の一途をたどっている。こうした霊長類学の総合的な研究センターは、アメリカのヤーキス霊長類センターなど、世界的にもわずかしかない。今回の改組をひとつのステップとして、本研究所がさらに発展し、国際的な研究センターとしての機能も果たすこ

とが重要になるだろう。今回の改組を契機として、本研究所の研究組織の最新の概要を紹介した。今後とも、霊長類の多面的な研究を通して、学問的並びに社会的な貢献に向けて努力したい。

(霊長類研究所)

<保健コーナー>

狭 心 症

過労死が最近問題となって、労災として認めるかどうか争われていることがあります。休みもなかなかとれず連日夜遅くまで仕事をしている人が、突然倒れ死亡するというのがいわゆる過労死と言われています。死亡の原因は、クモ膜下出血(頭蓋内出血)及び心筋梗塞によるものが多いようです。

クモ膜下出血は動脈瘤の破裂によることが多く、破裂するまで動脈瘤があることはなかなかわからないことが多いのですが、最近MRI(核磁気共鳴)検査により無症状のうちに発見されるようになりました。この検査は脳ドック(人間ドック)の一部として行っている病院もあるようです。

心筋梗塞とは、心臓を養っている冠状動脈が詰まって血流が途絶し、それより末梢の心筋が壊死する病気です。死んでしまうのではないかという不安を伴う激しい胸痛が20~30分も続くのが特徴です。致死的な不整脈が起こったり心臓の働きが落ちたりするので心筋梗塞が起これば集中治療室で治療が必要です。

心筋梗塞は突然起こる場合と、それまでも症状がある場合があります。運動した時などに、左胸全体に重苦しい感覚や痛みが続き、休んでいると消えてしまうといった症状がある場合は要注意です。例えば、バスが来ているからと走ったり、駅の階段を上ろうとした時に息苦しくなって左胸のあたりが痛んで、休んでいると5分ぐらいで症状がなくなってしまうというような人は、労作性狭心症の可能性あります。特に、健康診断で高血圧があるとか、コレステロールが高いとか、糖尿があるとかいわれている人は注意が必要で

す。

労作性狭心症は、冠状動脈に動脈硬化などで狭くなった部分ができ、運動すると必要な酸素量が不足し、胸痛が出ます。つまり胸痛は、心臓が「酸素が欲しいよ」といっているサインです。安静時には心電図は異常なく、運動すると心電図に変化が出てきます。トレッドミルという検査方法があります。動く歩道のようなベルトの上に乗って歩いてもらって心電図をとります。3分毎にベルトの速さと傾きが強くなります。心電図に変化が出るようなら、さらに精密な検査が必要でしょう。

薬による内科的治療は血管拡張剤が主となります。亜硝酸剤やカルシウム拮抗薬などです。発作が起こればニトログリセリン錠が有効です。ニトログリセリン舌下錠を口に入れると静脈より速やかに吸収され、冠動脈を拡張し症状がなくなります。

薬を飲んでいても発作の頻度が増えたとか発作の程度が強くなった場合には、どこの部分が狭くなっているか検査する必要があります。肘や足の付け根の動脈から管を入れ、冠状動脈に造影剤を入れて検査するのが冠動脈造影法です。約1時間で終わり苦痛もあまりありません。狭窄が強ければ、PTCA(経皮的冠動脈形成術)を行うことになります。動脈硬化で狭くなっている部分を風船で押し開くのです。約3割に再狭窄が起こりますが、うまく行けば、症状が軽減します。PTCAができない場合には、足の静脈や胸壁の裏の内胸動脈などをつかってバイパスをつける冠動脈バイパス術も考えることがあります。

これを読んで思いあたる症状のある人は、一度内科(特に循環器内科)に相談されることをお勧めします。

(保健診療所 青田正樹)

平成5年度文学部博物館 秋季企画展の開催

本学文学部博物館では、下記のとおり秋季企画展「伊勢神官文書の世界」を開催いたします。本学の教職員・学生は無料です（職員証又は学生証を呈示）。

記

期 間 10月26日（火）～12月18日（土）
開館時間 火曜日～土曜日 9：30～16：30
（入館は閉館30分前まで、日・月・祝日は休館）
場 所 博物館 企画・総合展示室（1F・2F）
展示内容

企画展「伊勢神官文書の世界」

博物館所蔵の松木文書、来田文書はいずれも伊勢神宮の神官の家の文書である。松木氏が、「二姓家」荒木田・度会）の一つとして外宮禰宜職を代々世襲したのに対し、来田氏（近世初頭に北氏から改姓）は「異姓家」で、神官の中でも末端につらなる家柄であった。

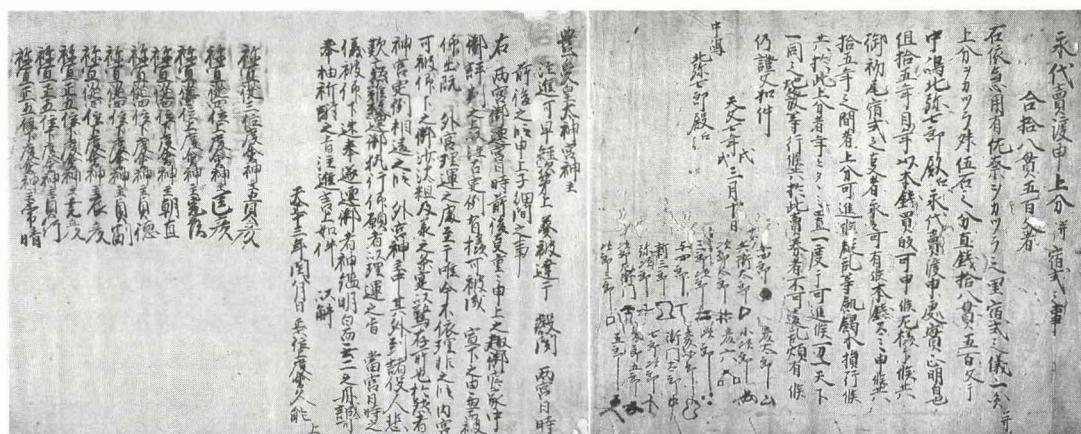
本館の松木越後家の文書には、永禄・慶長期をはじめ、遷宮関係の史料が数多くふくまれている。なかでも、現代につながる近世的遷宮の出発点ともいべき天正13年（1585）の遷宮にかかわる文書は貴重である。

来田文書を伝えた来田監物家は戦国時代以降、御師として活躍した。御師とは地方の信者（道者）を伊勢参宮にみちびく先達のことで、監物家は近江（滋賀県）・丹波（京都府・兵庫県）・淡路（兵庫県）などに道者をもっていた。本文書は道者に関する文書を大量に有し、伊勢御師文書として最良のコレクションの一つとなっている。

二つの文書をあわせることで、中世から近世はじめの「伊勢」とそれを取りまく世界がいきいきと見えてくる。

なお、博物館では同時に、常設展「日本古代文化の展開と東アジア」及び「日本の古文書」も開催する。

（文学部）



外宮庁申状 天正13年（1585）閏8月 日
松木文書

佐奈五桂宿職売券 天文7年（1538）3月10日
来田文書

